

MICHEL BARNIER

LONDON
SPEAKER
BUREAU

- European Commission's Head of Task Force for Relations with the United Kingdom (2019-2021)
- French Minister of Foreign Affairs (2004-2005)



ミシェル・バルニエは、ヨーロッパ担当のフランス人として国際的に知られるようになりました。元フランス外務大臣で欧州に関する著名な専門家である同氏は、欧州連合の首席交渉官として英国のEU離脱交渉を主導している。ミッシェル・バルニエ (*1951) は ESCP Europ ビジネススクールを卒業しました。若い頃からガウリストUDRの青年組織に参加し、学業を終えてすぐに政治家としてのキャリアを築いた。彼は当初、さまざまな閣僚のスタッフとして働き、1973年にサヴォワ県の一般評議会のメンバーになりました。

1978年、彼はネオ・ガウリストRPRの最年少議員としてフランス国会議員となった。その後数年間、ミシェル・バルニエは環境大臣、ヨーロッパ大臣、外務大臣などのさまざまな役職を歴任しました。2009年まで農水大臣を務めた。バルニエはヨーロッパ政治でも名を残した。

1999年にミシェル・バルニエは欧州委員会の委員となり、地域政策と制度改革のポートフォリオを引き継ぎました。その後、ホセ・マヌエル・バロゾ欧州委員会委員長の特別顧問となり、2007年に欧州議会議員に選出されました。そこでバロゾII委員会の域内市場 サービス担当委員の職を引き継ぎました。したがって、彼は欧州金融経済危機の間、金融サービスプロバイダーの監督と市場障壁の除去の責任を含む重要なポートフォリオを担っていました。

2014年からは委員会の副委員長も務めました。バルニエ氏は任期終了後、ジャン＝クロード・ユンケル委員長によって欧州防衛 安全保障政策に関する欧州委員会の特別顧問に任命された。バルニエ氏は、2016年7月にEU委員会のEU離脱首席交渉官に就任する前に名誉職としてこの任務を遂行した。確信を持った欧州人は、2021年3月までEU史上最大の交渉の1つを主導した。「ムッシュ・ブレグジット」は何よりも彼の忍耐力で説得されたそして彼がその複雑な仕事に決して絶望しなかったという事実。

ミシェル・バルニエ氏は、2022年のフランス大統領選挙に向けて共和党に立候補を申請した際、党内予備選挙で23.9%を得て3位となった。

Topics

- Economics
- Finance
- Politics